

外海域におけるホタテガイ放流試験 (階上町漁業協同組合)

田中 俊輔・長谷川幸雄^{*1}・島脇 芳雄^{*1}・日蔭 岩男^{*2}

本調査は昭和54年産自然発生貝（階上町沖で発生）、昭和55年産放流貝（蟹田町漁協から購入）、そして、地元で始めて稚貝を採取して中間育成をした後に放流した昭和59年産貝の残存、生育状況を把握するために行った。

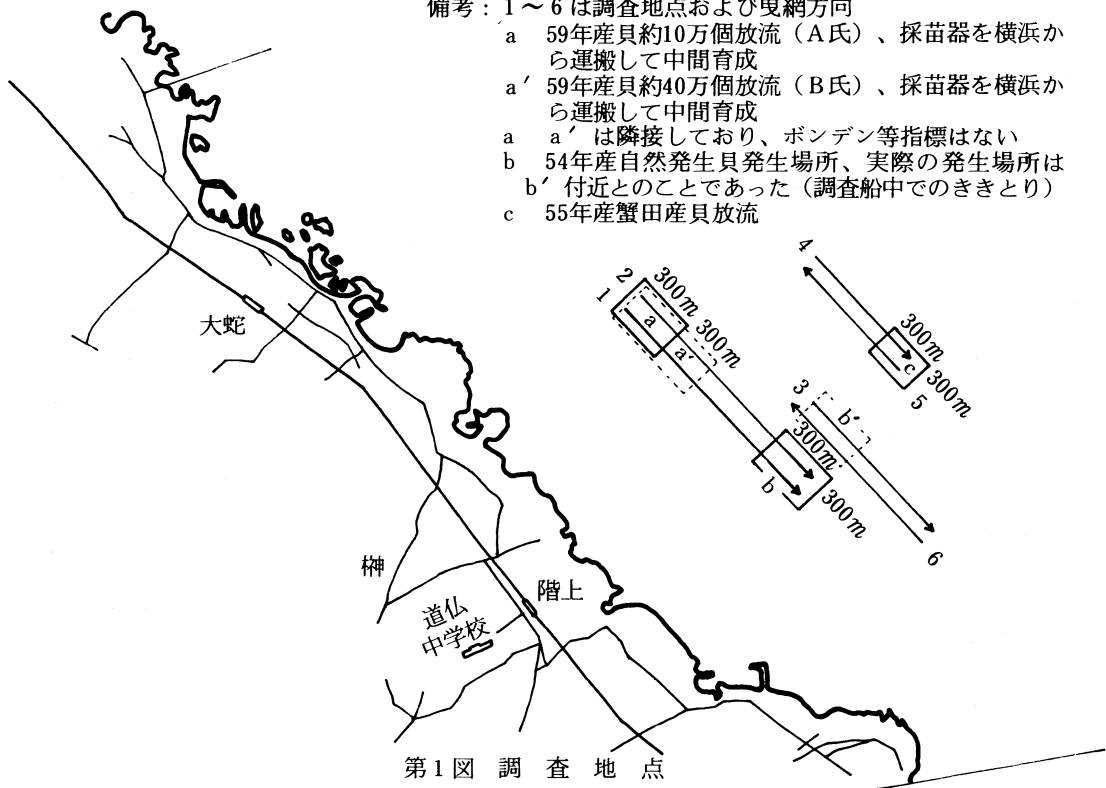
方 法

調査は5月28日に幸寿丸（浜道 幸一氏所有）を備船し桁網を使って行った。自然貝の発生漁場、各年度貝の放流漁場を第1図に示す。

桁網は第2図に示すように台巾2.0mで、岸に並行に曳いた。その時の桁網ロープ長は130～140m（φ16mm）であった。

備考：1～6は調査地点および曳網方向

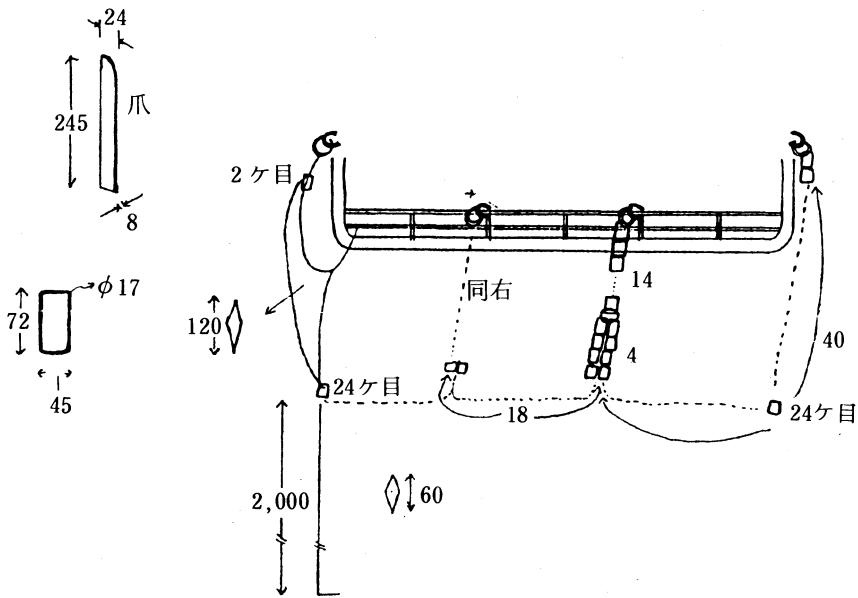
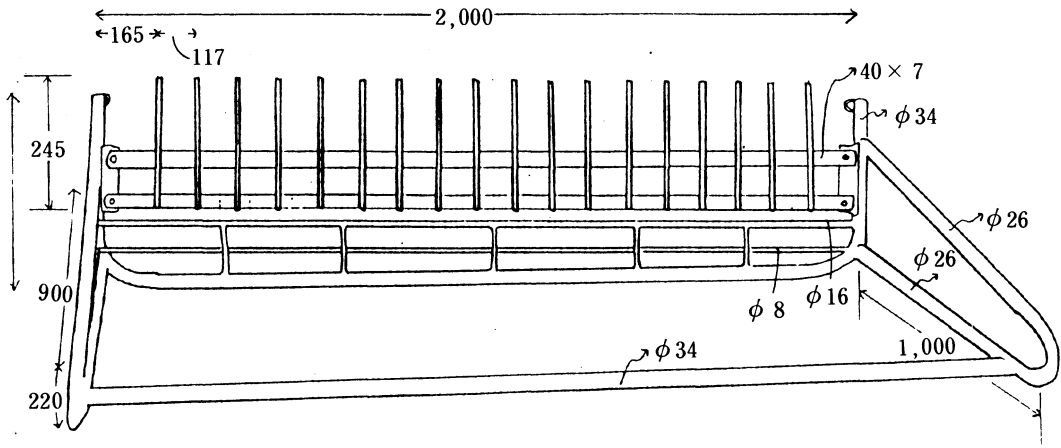
- a 59年産貝約10万個放流（A氏）、採苗器を横浜から運搬して中間育成
- a' 59年産貝約40万個放流（B氏）、採苗器を横浜から運搬して中間育成
- a a'は隣接しており、ボンデン等指標はない
- b 54年産自然発生貝発生場所、実際の発生場所はb'付近とのことであった（調査船中でのききとり）
- c 55年産蟹田産貝放流



第1図 調査地点

*1 青森県水産事務所

*2 階上町漁業協同組合



第2図 調査に用いた桁網（浜道 幸一氏所有）

第2表 採捕されたホタテガイ他の測定結果

	St.	No.	年産貝	殻長 mm	殻高 mm	殻巾 mm	全重量g	備考
ホタテガイ	1	1	◎59年産放流貝	51.7	52.5	12.4	18	
		2	59年産自然貝	53.4	51.8	12.7	17	
		3	◎59年産放流貝	49.7	50.1	10.4	10	
		4	◎59年産放流貝	51.4	50.4	12.4	14	
	2	1	59年産自然貝	54.2	52.4	12.4	17	
		3	59年産自然貝	51.7	50.3	11.3	13	
	6	1	59年産自然貝	61.5	58.3	11.8	20	
		2	〃	55.4	54.4	12.1	18	
		3	〃	58.4	57.6	12.3	19	
		4	〃	53.7	57.4	10.8	15	
		5	〃	48.6	46.5	12.0	14	
		6	〃	38.8	39.4	8.4	—	死 殻
		7	57年産自然貝	105.4	103.2	24.2	114	
ビノスガイ	1	1		9.7cm	7.7cm	4.5cm	248g	
		2		9.1	7.5	4.4	184	
		3		8.5	7.5	4.0	164	
		4		5.4	4.5	2.5	40	
		5		5.3	4.5	2.3	36	
	2	1		9.0	7.3	4.1	190	
		2		9.3	7.3	4.0	224	
		3		5.0	4.8	2.5	46	
		4		6.0	4.9	2.5	48	
		5		5.3	4.2	2.2	24	
モガイ	6	1		5.3	4.1	3.3	36	
エゾイシカゲガイ	6	1		4.5	3.0	3.6	20	

◎放流貝と思われる、採捕されたホタテガイは全数測定した。

昭和54年産自然貝、昭和55年産放流貝共に残存の確認ができなかった。昭和59年産貝は、12個採捕され、そのうちの3個が放流貝であった。その他に昭和57年産自然貝が1個採捕された。

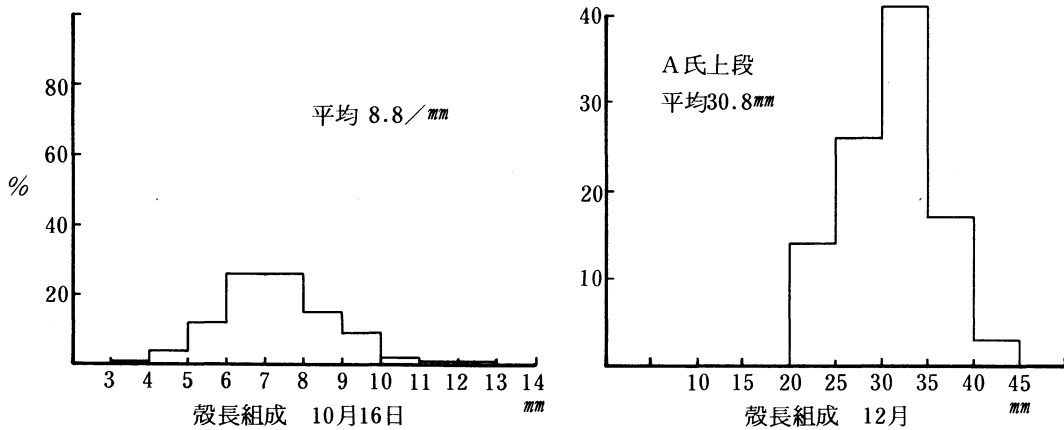
本調査の曳網距離は5地点を総計すると6,022mに達した。しかし、放流区画が明確に維持されていないために放流区画内に調査を集中することができなかった。外海放流の場合、放流区画を明確に維持することが放流後の調査、採捕を効率的に行うための重要な要因の一つになるであろう。

考 察

稚貝採取等のホタテガイ養殖作業の経験が全くない地元漁業者（2名）から稚貝採取、中間育成、放流する迄の経緯を聞き取りしたのでその概略を述べる。

稚貝採取：陸奥湾内にある横浜町漁業協同組合が天然採苗した採苗器（20連×13袋）を9月26日に階上町漁協に運搬した。A氏は付着個数が約2,600個/袋の採苗器3連、B氏は付着個数が2,300個/袋の採苗器10連を2分目のフルイを使って常法通り（詳細は不明）稚貝採取を行った（10月2日）。この時、平均殻長は $7.32 \pm 2.39\text{mm}$ で、フルイに残ったホタテガイ生貝、死貝、ムラサキイガイの比は17：109：113であった。

中間育成：A氏は300個/パになるように収容し、10月16日に測定したところ、平均殻長 8.81 ± 2.09 （5～14）mm、平均全重量 0.17g であった。



第2図

放流：A氏が放流前日の12月17日に生残率をみたところ、およそ3分の1～4分の1であった。A氏は12月17日に約10万個、B氏は1月8日に約30万個をそれぞれ漁協に販売し、漁協が指定した海域に放流した。

註）青森県外海の漁業者が自らホタテガイの稚貝を採取、中間育成して販売したのは今回が始めてである。

放流時における殻長組成、測定結果を第2図、第3表に示す。

第3表

漁業者	パールネット	生貝収容個数	殻 長 (範 囲) mm	全 重 量 g	備 考
A	上	100	30.7800 ± 4.6701 (20～40)	3.36(336/100個)	
	中	68	33.0735 ± 4.5854 (22～41)	3.94(268/68個)	
	下	66	31.9848 ± 3.8971 (22～39)	3.67(242/66個)	
B	上	173	30.3750 ± 4.1388 (24～42) 104個測定	3.10(322/104個)	
	中	141			
	下	125			